

岩手県文化財調査報告書第69集

東北縦貫自動車道関係埋蔵文化財調査報告書

— XIV —

(紫波町 栗田Ⅰ・Ⅱ・栗田Ⅲ遺跡)

昭和 57 年 3 月

岩 手 県 教 育 委 員 会
日 本 道 路 公 団

東北縦貫自動車道関係埋蔵文化財調査報告書

— XIV —

序

地域開発に伴う道路など交通網の整備事業は、現代社会の進歩発展から生ずる必然的な要請であり、本県においても、このような建設事業が多く計画、実施されております。

これらの開発事業に関連して、私たちには、先人が長い歴史の中で培いはぐくんできた貴重な文化遺産を保護し、新たな文化創造の糧として活用していく責務があります。

国土開発計画に基づいて建設される東北縦貫自動車道は、産業・経済開発の大動脈として多方面からの期待をになう国家的な大事業であり、宮城県境より西根インターまでは、すでに供用され、現在は更に秋田、青森県境へと工事が進められております。

岩手県教育委員会は、この供用区間に関係した99遺跡について、日本道路公団仙台建設局の委託によって、昭和47年度から7ヵ年にわたって発掘調査を実施し、その整理と報告書の作成を、昭和53年度から4ヵ年計画で実施して参りました。本年度は、その最終年度にあたります。

本報告書は、東北縦貫自動車道関係埋蔵文化財調査報告書の第 XIV 冊目として、紫波町の栗田 I・II・IIIの遺跡について調査結果をとりまとめたものであります。

これらの遺跡からは、縄文時代から近世までのさまざまな遺構が検出されております。おもなものには、焼土にまじってクリ・クルミ等が発見された縄文時代後期の土壌や、平安時代の焼失家屋跡、近世の建物跡があります。中でも、近世の掘立柱建物跡（曲屋）の調査は、在地における民家構造の発展過程を知る上に、貴重な資料を提示いたしております。

この報告書が、研究者のみならず、広く一般のかたがたに活用され、埋蔵文化財に対する理解が一段と深められるよう願ってやみません。

ここに、調査について御援助・御協力をいただいた地元教育委員会はじめ関係各位に対し、心から感謝申し上げます。

昭和 57 年 3 月

岩手県教育委員会
委員長 新里 盈

例 言

1. 本書は東北縦貫高速自動車道関係遺跡発掘調査報告書第 XIV 分冊として紫波地区（第 III 分冊掲載分は除く。）所在の 3 遺跡について作成したものである。
2. 遺跡の記載は、北から順に編集した。
3. 調査および整理にあたって、次の方々と機関のご教示を賜わった。（敬称略・順不同）
田中喜多美（県文化財保護審議員）、板橋 源（県文化財保護審議員）、革間俊一（県文化財保護審議員）、司東真雄（県文化財保護審議員）、林 謙作（北海道大学）、（故）佐藤正男（財）岩手県埋蔵文化財センター、岩手県立博物館、藤沼邦彦（東北歴史資料館）
4. 資料の鑑定・分析等については、次の方々と機関のご教示ご協力を賜わった。（敬称略・順不同）
・石材鑑定—佐藤二郎（岩手県立大船渡農業高等学校）
・種子鑑定—村井三郎（県文化財保護審議員）
・樹種鑑定—早坂松次郎（県木炭協会・経営指導員）
・土器胎土分析—照井一明（岩手県立種市高等学校）
・ ^{14}C 測定—日本 R I 協会
・土器胎土分析—岩手県工業試験場・岩手県立博物館
5. 本書に掲載した地形図は、建設省国土地理院発行のもの及び日本道路公団作成のもの・岩手県企画開発室作成のものを使用した。
6. グリッド配置図、遺構配置図は、日本道路公団作成「東北高速道計画」図（第 10 系座標系の北方向）により、遺跡・遺構等の方向表示を行っている。
7. 遺跡における層相等の色調観察は、小山・竹原編著「新版 標準土色帳」（日本色研事業）を使用して行なった。
8. 遺物・写真・実測図等の資料は岩手県教育委員会事務局文化課において保管している。
9. 調査主体者・岩手県教育委員会、日本道路公団
10. 調査担当者・岩手県教育委員会事務局文化課
11. 発掘調査・整理報告書作成等に関する担当者は以下の通りである。尚序文の執筆は、吉田努・相原康二。紫波地区概観に関しては第 III 分冊内容に一部加筆、遺跡分布・図等に関しては当課所収遺跡基本台帳によった。

	発掘調査者（調査時整理者）	整理・執筆者	整理補助
栗田 I・II 遺跡	三上昭、斉藤淳、狩野敏男、中村清也	狩野敏男	桜井芳彦
栗田 III 遺跡	島隆、小平忠孝、菊池茂樹、千葉周秋	島隆、狩野敏男	桜井芳彦

目次

序文

1. 経 過 1
 2. 調査の方法について 2
 3. 整理について 3

本文

紫波地区概観…………… 1

1. 地形概観…………… 1
 2. 周辺の遺跡…………… 1

〔1〕 栗田Ⅰ・Ⅱ遺跡…………… 7

- I 遺跡の位置と立地…………… 11
 II 調査に於ける基準点…………… 11
 III 基本層序…………… 11
 IV 検出された遺構と遺物…………… 12

(1) 遺物包含層出土遺物…………… 12

- イ、縄文時代遺物…………… 12
 ロ、古代以降の遺物…………… 16

(2) 縄文時代の遺構と遺物…………… 19

- 竪穴式住居跡…………… 19
 土 塙…………… 21

(3) 古代以降の遺構と遺物…………… 22

- (1). 竪穴式住居跡…………… 22
 (2). 竪穴状遺構…………… 30
 (3). 焼土遺構…………… 30
 (4). 溝状遺構…………… 32
 (5). 掘立柱様柱穴群について…………… 34

V まとめ及び今後の課題…………… 45

写真図版…………… 47

〔2〕 栗田Ⅲ遺跡…………… 65

I 位置と立地…………… 73

II 調査に於ける基準点…………… 73

III 基本層序…………… 73

IV 検出遺構…………… 73

V 縄文時代の遺構と遺物…………… 74

1. 竪穴式住居跡…………… 74

2. 焼土遺構…………… 78

3. 土 塙…………… 80

4. 溝状土塙…………… 83

5. 縄文時代の遺物…………… 89

a・b-石製品 c-縄文式土器

VI 古代以降の遺構と遺物…………… 93

a. 竪穴式住居跡…………… 93

b. 古代以降の出土物…………… 95

VII 近世以降の遺構と遺物…………… 95

1. 掘立柱建物群…………… 95

第一群, 97 第二群, 104 第三群, 113

2. 溝…………… 115

3. 水場・墓塙…………… 117

4. 出土遺物…………… 119

VIII まとめ及び今後の課題…………… 125

写真図版…………… 129

〔3〕 巻末 諸分析資料…………… 157

1. 岩石学的胎土分析結果…………… 157

写真図版…………… 163

2. 胎土分析(元素組成)…………… 177

職員一覧…………… 178

図 版 目 次

紫波地区概観			
地形分類及び遺跡分布図……………	3		
地形図(分類凡例・遺跡一覧表)			
〔1〕 栗田Ⅰ・Ⅱ遺跡			
第1図 遺跡地区……………	9	第4図 基本層序……………	73
第2図 遺構配置図……………	10	第5図 (Cg56) 竪穴住居跡、他……………	74
第3図 基本層序……………	11	第6図 第2号(Af12) 竪穴住、他……………	75
第4図 包含層遺物(縄文)……………	13	第7図 (Cg59) 竪穴住居跡……………	77
第5図 石製品……………	15	第8図 第1・2号焼土遺構、他……………	79
第6図 古代以降の遺物……………	17	第9図 第4号(Ci21) 焼土遺構……………	80
第7図 竪穴式住居跡……………	19	第10図 土 墳……………	82
第8図 (Db53) 土墳及び出土遺物……………	20	第11図 溝状土墳(1)……………	84
第9図 第1号(Bb06) 住居跡……………	22	第12図 " (2)……………	85
第10図 第2号(Ch62) "……………	23	第13図 " (3)……………	86
第11図 第3号(Dc12) "……………	25	第14図 " (4)……………	87
第12図 第3号住・出土遺物……………	26	第15図 土墳諸元表……………	88
第13図 第4号(Ej15) 住居跡……………	28	第16図 石製品……………	91
第14図 第4号住・出土遺物……………	29	第17図 縄文式土器……………	92
第15図 Ca62竪穴状遺構他……………	30	第18図 (Bc74) 竪穴式住居跡……………	94
第16図 焼土遺構……………	31	第19図 (Be89) "……………	94
第17図 溝出土物……………	33	第20図 古代以降の遺物……………	96
第18図 溝状遺構……………	35	第21図 第1号(Aj65) 建物跡……………	98
第19図 柱穴の型式模式……………	37	第22図 第一群建物跡……………	99
第20図 第1(Ci65) 建物……………	38	第23図 第2号(Aj74) 建物跡……………	101
第21図 第2(Cj65) "……………	38	第24図 第3号(Bc71) "……………	102
第22図 第3(Da53) "……………	39	第25図 第4号(Bc83) "……………	103
第23図 第4(De53) "……………	40	第26図 第二群第1号建物跡……………	104
第24図 第5(Dc56) "……………	41	第27図 第二群掘立柱建物跡……………	105
第25図 第6(De53) "……………	42	第28図 " 第2号 "……………	107
第26図 建物図(出土遺物)……………	43	第29図 " 第3号 "……………	108
		第30図 " 第4号 "……………	109
		第31図 " 第5号 "……………	110
		第32図 第三群第1号建物跡……………	111
		第33図 柱穴(第二群建物)……………	112
		第34図 第三群第2号建物跡……………	113
		第35図 第三群建物跡……………	114
		第36図 (Cb80) 水場……………	117
		第37図 墓 墳……………	118
		第38図 陶 器……………	121
		第39図 陶 磁 器……………	122
		第40図 磁 器……………	123
		第41図 金属製品……………	127
〔2〕 栗田Ⅲ遺跡			
第1図 遺跡地形図……………	67		
第2図 出土状況……………	69		
第3図 遺構配置図……………	71		

写真図版目次

〔栗田Ⅰ・Ⅱ遺〕		〔栗田Ⅲ遺跡〕	
第1図	遺跡全景…………… 47	第1図	遺跡全景……………129
第2図	D・E区全景…………… 48	第2図	溝等(埋土層断面)……………130
第3図	縄文時代の遺構…………… 49	第3図	縄文時代遺構及び遺物……………131
((Dc50) 竪穴住居跡、第1号土壇等)		第4図	縄文時代土壇・焼土遺構……………132
第4図	縄文時代の遺物及び古代遺構…………… 50	第5図	溝状土壇及び土壇……………133
第5図	竪穴式住居跡(古代)…………… 51	第6図	土壇……………134
第6図	第3号住居跡出土物…………… 52	第7図	＃……………135
第7図	第4号住居跡及び (Ca62) 竪穴状遺構等…………… 53	第8図	溝状土壇(Ah~Bc区)……………136
第8図	竪穴状遺構と焼土遺構…………… 54	第9図	＃(Bc~Bf区)……………137
第9図	焼土遺構(1)…………… 55	第10図	＃(Bf~Bg区)……………138
第10図	＃(2)…………… 56	第11図	＃(Bh~Ce区)……………139
第11図	包含層出土 縄文時代遺物…………… 57	第12図	＃(Ce~Cf区)……………140
第12図	包含層出土 縄文時代以降の遺物…………… 58	第13図	＃(Cg~Db区)……………141
第13図	包含層出土 古代以降の遺物…………… 59	第14図	石製品……………142
第14図	(Ba03) 溝出土 古代以降の遺物…………… 60	第15図	縄文式土器……………143
第15図	(Ag53、Cb77、Ce62) 溝及び出土物…………… 61	第16図	古代以降の遺構と遺物……………144
第16図	(Ba03) 溝…………… 62	第17図	古代以降の遺物……………145
第17図	C・D区柱穴等遺構 及び出土遺物…………… 63	第18図	土製品……………146
第18図	B・C・D・E区 出土遺物等…………… 64	第19図	第一~三群建物全景等……………147
		第20図	第一群建物柱穴……………148
		第21図	第一・三群建物柱穴……………149
		第22図	第二群建物柱穴柱根……………150
		第23図	＃柱根……………151
		第24図	(Bi~Bc) 土壇様遺構……………152
		第25・26図	陶器…………… 153・154
		第27・28図	磁器…………… 155・156
		第29図	金属製品……………157
		〔巻末胎土分析資料〕	
		第1~13図	土器胎土顕微鏡写真… 165~177

序 文

1 経 過

県内の東北縦貫自動車道建設は、昭和40年11月仙台・盛岡間の基本計画の決定に始まり、昭和43年4月の施行命令によって具体化される。

これによって破壊される埋蔵文化財の取扱いについては、文化庁と日本道路公団の覚書により、岩手県教育委員会がおこなうことになった。

まず、一関・盛岡間の路線予定地内の分布調査が、昭和42年及び43年に実施され、昭和45年2月19日水沢・花巻間40km、同年11月25日一関・胆沢間30km、46年2月10日石鳥谷・盛岡間29kmの路線発表がなされたことに伴ない、昭和47年8月～9月に、用地巾50mで現地確認調査、同年10月インターチェンジ及び付帯施設予定地内の現地確認調査等が順次実施され、一関・盛岡間の調査対象遺跡は当初82ヶ所確認された。

これらの破壊される遺跡について、できるだけくわしく調査記録し、遺跡のもつ歴史的価値を永く後世に伝えることを目的とし、昭和47年度に北上市・花巻市・金ヶ崎町所在の遺跡から調査が開始され、用地買収、着工順位に従って順次すすめられた。

この間、調査除外としたもの4ヶ所がある。一関市苜又遺跡は過去の開田による破壊の程度が大きく煙滅、一関市松の木遺跡は宅地化による破壊、衣川村柵形障場跡は所在位置が路線からはずれる。衣川村二枚貝化石層は遺跡としての調査対象としないなどの理由による。

また、路線変更によって保存されたのが、平泉町伝護摩堂跡である。この遺跡は奥州平泉文化との関連が考えられ、路線発表後に路線内に所在することが確認され、急遽日本道路公団と協議し、路線を西側に変更した。一方、工事直前もしくは工事中に新しく確認追加されたものに、土取場の和賀町梅ノ木Ⅰ～Ⅵ遺跡、路線内では江釣子村下谷地B遺跡・紫波町墳館遺跡および柳田館遺跡がある。

昭和49年6月20日、盛岡・安代間53kmの路線発表があり、この区間のうち、盛岡・西根（松川まで）間が調査対象の日程にくりこまれ、当初、8遺跡が確認されたが、工事中に滝沢村卯遠坂遺跡が発見追加され、更に紫波インターチェンジの誘致新設に関連し、栗田Ⅰ～Ⅲ遺跡が調査対象となる。

以上のように、一関・西根（松川まで）区間の調査対象遺跡数は、除外、新規発見などによる変動を見て来た。このことは、埋蔵文化財保護の基本の一つとして、分布調査の重要性が改

めて問われる一面でもある。結局、調査遺跡数は、99遺跡、18市町村におよぶものとなった。

調査をすすめる一方、文化庁、日本道路公団との協議によって、前述の伝護摩堂跡を完全保存したのをはじめ、江釣子村鳩岡崎遺跡の縄文中期の大型穴住居跡の一部分、水沢市石田遺跡では、奈良時代末から平安時代初期に相当する焼失家屋1棟、紫波町上平沢新田遺跡では、平安時代相当の焼失家屋1棟の路線境検出遺構を一部精査の上、それぞれ埋めもどし現地保存をした。

また、江釣子村猫谷地遺跡の古墳1基、紫波町墳館遺跡の墳墓1基、柳田館遺跡・盛岡市太田方八丁遺跡の一部は、施工方法や設計変更等によって可能な限りの保存策をとった。

しかし、これらの保存遺構や遺跡の管理、活用は今後十分に留意しなければならないものであり、それがなされなければ完全な保存策であったとは言い得ない。

昭和47年度に始まった調査は、昭和53年度の紫波町栗田Ⅲ遺跡を最後に終り、現在、整理作業をすすめているが、東北縦貫自動車道建設の具体化以来、事業をすすめるに当たって、終始指導と助言をくださった県内外の協力者、および献身的な協力を得た関係市町村教育委員会、学校、関係諸機関、地元作業員の方々をはじめ各位に改めて敬意を表したい。

なお、西根町以北の東北縦貫自動車道関連遺跡は、(財)岩手県埋蔵文化財センターによって調査されることになり、昭和53年度から実施されている。

2. 調査の方法について

(1) 調査対象範囲の選定は、遺跡の中で用地内および付帯施設を含む関連部分は、すべて調査対象とした。更に、当該遺跡周辺の分布調査を可能な限り実施することにつとめ、調査地とそれをとりまく遺跡群との関連解釈の一助に資することとした。

(2) 調査対象全域に次のような地区を設定した。

①地区設定のための原点は、日本道路公団測量の路線内中心杭の任意のものに定め、それと他の中心杭の2点間を見通す直線と、原点を通りこれに直交する直線を座標の基準線とした。

②南北の基準線をもとに、30mを1ブロックとし、北から順にA・B……の記号を付し、これを東西、南北に10等分し3m×3mのグリットを設定、グリット名は北から順にa-j、南北基準線から東方へ50・53・56……。西方へ03・06・09……。の記号を付し、これとブロック記号の組合せで表わした。例えば、Aa03・Aa50のようになる。

(3) 発掘および記録について、発掘調査は絶対にくりかえしの出来ない作業である。特に、緊急調査と言う性格と記録保存を考えると、調査の過程で観察された事項は可能な限り詳細

に、しかもすべて客観的データとして記録されねばならないし、記録者の解釈と観察された事実とが混同されぬよう留意しながら①遺構群をひとつのまとまりとして把握すること、文化層が重なっている場合、層序とともにそれぞれの文化層のひろがりを実際に把握すること、更に緊急調査の場合、事後の保存が困難である以上、トレンチによる部分発掘は回避すべきであることからグリッド設定にもとづく平面発掘につとめた。

②原則として3m×3mのグリッドで、調査地における遺物・遺構の分布状況を把握するため、「ちどり」状に人力による粗掘をすることにしたが、結果的に機械力の導入も多かった。遺物・遺構の検出を見た場合、その具体的内容を究明するため必要範囲の全面発掘を実施した。

③遺構が検出された場合、該当グリッド名を付した。その場合もっとも北西に位置するグリッド名で呼称することを原則とした。精査に当っては、2分法・4分法による平面発掘に留意し、遺構の性格と内部堆積状況・構造・重複等を把握しながら完掘することとした。

④遺物は、原則としてグリッドごとに取り上げ、遺跡記号・出土年月日・出土地点・出土層位を記録し、遺構に直接関係するものや、年代決定の資料となり得るものについては出土レベル、位置を平面図に記録し、遺物番号を付けて取り上げた。

⑤遺物の出土状況・層位・遺構に関する所見等の記録は、実測図・遺構カード・フィールドノートを用い、全体の問題点、進行は調査日誌に記録した。

⑥写真記録は、35mm版モノクロ、カラー・6×7cm版モノクロを主として用いた。

(4) 実測方法 ①発掘された遺構の実測は、原則として遣り方実測を用い、平板実測は補助にとどめた。②原図の縮尺は $\frac{1}{50}$ に統一したが、遺構・遺物の細部については、必要に応じて $\frac{1}{20}$ 縮尺を採用した。

(5) 関連科学との連携について、総合的な見地からの記録作業という意味で、考古学のみならず関連科学の研究者、とくに自然科学系統の分野との連携に留意し、調査現場の実見と見解を求めることにつとめた。

3. 整理について

整理にあたっては調査の性格(「緊急調査」と「記録保存」)を十分に考慮した。したがって可能な限り詳細な記録を作成することと、その公開を主目的とした。なおいわゆる「行政調査(とくに緊急調査)」と「学術調査」の異同を、その「現場」に投入された技術、方法の次元に還元して論ずるのは妥当ではない。「緊急調査」の「現場・調査」の位置づけについては、本課にも若干の反省点がある。

(1) いわゆる「珍品主義」・「一番主義」を排し、得た資料のすべてを観察し、それぞれに応じた記録を作成することを旨とした。各調査地(「遺跡」)・調査資料の正当な評価の資料を提示するためであるし、それが「記録保存」の趣旨にも連なるからである。その結果として記述が若干繁雑になった。ただし実際上は、調査担当者の設定仮説が整理担当者に十分に伝わっていないなどのことも目立ち、満足のいく整理を必ずしもなしえなかった調査地もまた多い。遺憾である。また本書に提示した諸仮説、見解は本課の統一見解ではなく、整理担当者のそれである。具体的には、①観察事項の正確な伝達 ②仮説の提示とその展開、吟味 ③新規の仮説、問題点の提起 ④新しい資料操作法の提示、などを旨としたが、前述のように必ずしも十分には実施できなかった。

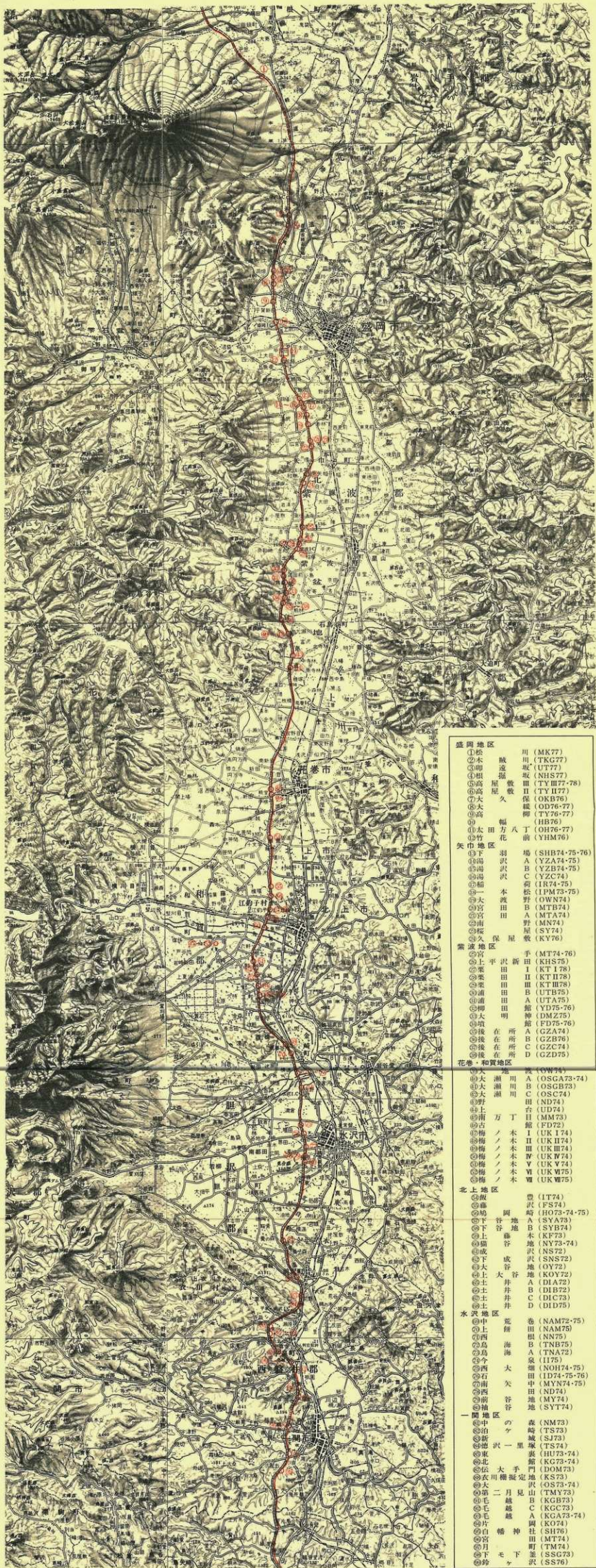
(2) 調査地はそれのみ単独での評価は避け、一定の地域内とりわけ他の「遺跡」との関係重視して解釈・評価するように努めた。『周辺の遺跡』の項がや、繁雑にわたっているのはその為である。これは(1)の実践をめざすのみならず、遺構存在を遺跡成立の絶対条件視する見解への反論のためにも必要であり、とりわけ埋蔵文化財保護にはきわめて重要な観点である。

(3) 調査時と同様に「関連諸科学・諸技術との連携」に留意した。(1)で述べた目的を満足させる為に必要不可欠であり、さらにはその保存処理・各種データの蓄積・その公開も本課に課せられた責務だからである。今後の継続実施を考慮し、可能なものは努めて本課内の機関・公所・その他に連携ないし委託先を求めた。具体的実施例は、年代測定(カーボンディATING・熱ルミネッセンス法他)・材質鑑定(石材他)・樹種鑑定(木器・木材・柱脚他)・種子鑑定(炭化米・雑穀類・雑草類他)・花粉分析・人骨(歯)鑑定・獣骨(家畜を含む)鑑定・組成分析(釉薬・土器胎土・火山灰他)・燐分析・地質学的諸分析等にわたるが、今後も新分野を加える必要がある。保存処理は、木器・木材・柱脚類、鉄器類を中心に実施しているが、これも今後さらに新分野のものについて実施する必要がある。地質学的知見・教示は(2)などとの関連で、調査地および周辺の「遺跡」の立地・占地に関して、また遺物と出土層(とくに火山灰層)との関連に留意して援用した。大規模調査地については航空写真・ステレオカメラにもとづく作図を採用した。

(4) すべての対象(遺構・遺物・「遺跡」)について、技法的分析に加え組みあわせ重視の観点をも加えてある。

(5) 以上の技術的基準・指標として『出土遺物の整理について』(昭和47年作成のち一部修正)を作成し大略それに準拠した整理を実施した。細部は省略するが、大枠は①観察事項を正確に伝えるための作図法他の技術的部門、②文章表現上の留意点とからなる。後者については観察事項と解釈の峻別・不明事項の不明の理由明示などがとくに求められている。

(6) 得た膨大な資料の公開は、別途計画のもとに実施されるであろう。



- 盛岡地区
- ①松川 (MK77)
 - ②木内 (TKG77)
 - ③根子 (UT77)
 - ④根子 (NHS77)
 - ⑤高根 (TY III 77-78)
 - ⑥高根 (TY II 77)
 - ⑦大田 (OKB76)
 - ⑧大田 (OD76-77)
 - ⑨高根 (TY76-77)
 - ⑩太田 (HB76)
 - ⑪太田 (OH76-77)
 - ⑫太田 (YHM76)
- 矢野地区
- ⑬矢野 (SHB74-75-76)
 - ⑭矢野 (YZA74-75)
 - ⑮矢野 (YZB74-75)
 - ⑯矢野 (YZC74)
 - ⑰矢野 (IR74-75)
 - ⑱矢野 (IPM73-75)
 - ⑲矢野 (OM74)
 - ⑳矢野 (MTB74)
 - ㉑矢野 (MTA74)
 - ㉒矢野 (MA74)
 - ㉓矢野 (SY74)
 - ㉔矢野 (KY76)
- 紫波地区
- ㉕手沢 (MT74-76)
 - ㉖手沢 (KHS75)
 - ㉗手沢 (KT I 78)
 - ㉘手沢 (KT II 78)
 - ㉙手沢 (KT III 78)
 - ㉚手沢 (UTB75)
 - ㉛手沢 (UTA75)
 - ㉜手沢 (YD75-76)
 - ㉝手沢 (DMZ75)
 - ㉞手沢 (FD75-76)
 - ㉟手沢 (GZA74)
 - ㊱手沢 (GZB76)
 - ㊲手沢 (GZC74)
 - ㊳手沢 (GZD75)
- 花巻地区
- ㊴花巻 (OW74)
 - ㊵花巻 (OSGA73-74)
 - ㊶花巻 (OSB73)
 - ㊷花巻 (OSC74)
 - ㊸花巻 (ND74)
 - ㊹花巻 (MM73)
 - ㊺花巻 (FD72)
 - ㊻花巻 (UK I 74)
 - ㊼花巻 (UK II 74)
 - ㊽花巻 (UK III 74)
 - ㊾花巻 (UK IV 74)
 - ㊿花巻 (UK V 74)
 - ㊿花巻 (UK VI 75)
 - ㊿花巻 (UK VII 75)
- 北上地区
- ㊿北上 (IT74)
 - ㊿北上 (FS74)
 - ㊿北上 (HO73-74-75)
 - ㊿北上 (SVA73)
 - ㊿北上 (SB73)
 - ㊿北上 (KP73)
 - ㊿北上 (NY73-74)
 - ㊿北上 (NS72)
 - ㊿北上 (SNS72)
 - ㊿北上 (OY72)
 - ㊿北上 (KOY72)
 - ㊿北上 (DIA72)
 - ㊿北上 (DIB72)
 - ㊿北上 (DIC73)
 - ㊿北上 (DID73)
- 水沢地区
- ㊿水沢 (NAM72-75)
 - ㊿水沢 (NAM73)
 - ㊿水沢 (NN75)
 - ㊿水沢 (TNB75)
 - ㊿水沢 (TNA72)
 - ㊿水沢 (IT75)
 - ㊿水沢 (NOH74-75)
 - ㊿水沢 (ID74-75-76)
 - ㊿水沢 (UY74-75)
 - ㊿水沢 (ND74)
 - ㊿水沢 (MY74)
 - ㊿水沢 (SYT74)
- 一戸地区
- ㊿一戸 (NM73)
 - ㊿一戸 (TS73)
 - ㊿一戸 (SB73)
 - ㊿一戸 (TS74)
 - ㊿一戸 (HU73-74)
 - ㊿一戸 (KG73-74)
 - ㊿一戸 (DOM73)
 - ㊿一戸 (KS73)
 - ㊿一戸 (OS73-74)
 - ㊿一戸 (TM73)
 - ㊿一戸 (KGB73)
 - ㊿一戸 (KGC73)
 - ㊿一戸 (KG73-74)
 - ㊿一戸 (KO74)
 - ㊿一戸 (SH76)
 - ㊿一戸 (MT74)
 - ㊿一戸 (TM74)
 - ㊿一戸 (SSG73)
 - ㊿一戸 (SS76)

岩手県における東北縦貫自動車関係通分布図 1:200,000

本

文

紫波地区概観

1 地形概観

本調査地区は、紫波郡紫波町の北上川西部地区にある。従ってこの地区のみを対象とした。地区概観については、「東北縦貫自動車道関係埋蔵文化財調査報告書Ⅱ・Ⅲ」の地区概観に、関連する地区として既に紫波町の地区概観も記載されている。

紫波町西部地区の地形は、西から山地、丘陵地、段丘群、河岸低地、等からなる。(注1) 山地は、第三系より成る東根山(928m)、黒森山(647.1m)、諸倉山(713m)等の諸山があり、中央部に滝名川上流の山王海ダムがある。その東縁は断層崖と見られている。この山地東縁の外方に第三系に属する安山岩の露頭として、北谷地山、城山がある。

丘陵地は、川崎山、松葉山等の山地東麓、土館・片寄地区の西側に見られるようである。

段丘群は北上川西部地区の大部分を占め、調査地区もすべてこの上に立地する。現在までの研究成果によれば、古い順に、1. 石鳥谷段丘(高位、西根段丘相当)、2. 二枚橋段丘(中位、村崎野段丘相当)、3. 花巻段丘(低位、金ヶ崎段丘相当)、4. 都南段丘(低位、金ヶ崎段丘相当)、である。1は、土館・片寄地区の西部山地東縁の山麓部、陣ヶ岡付近、京田・藤沼付近、片寄南部等、にみられる。2は、1にともなって分布し、陣ヶ岡周辺、作岡・油田・檜付近、稲藤・京田付近、土館・片寄の北東側等にみられる。3は、西部山地東麓から東方へ広範囲にみられ、南伝法寺から水分周辺、土館・片寄の大部分等、を占めている。4は、3の外方や、これを刻む河谷に沿って分布する。

河岸低地は、北上川流域・滝名川流域・五内川流域等にみられる。この地区の河川は、みな北上川支流の小河川で、他には下松本・陣ヶ岡を東流し、五内川と合流する宮手川、東根山の南山麓を東流し、竹原地区で滝名川と合流する沢内川、竹原・宮手地区を東流し、本町川原で北上川に合流する大坪川、上平沢・平沢地区を東流し⁴⁴⁶甘木地区で北上川に合流する平沢川、滝名川の分流で土館・片寄地区の西側を南流する山王海幹線水路等がある。

前回までに記載された遺跡中、浦田B・浦田A・柳田館・大明神・墳館・御在所D・御在所A・御在所B・御在所Cの各遺跡は、石鳥谷段丘上の頂部平坦地や緩斜面に、上平沢新田遺跡は二枚橋段丘上の西南縁部に、宮手遺跡は花巻段丘面に、それぞれ立地する。

今回記載される栗田Ⅰ・Ⅱ遺跡は3の低位段丘面上に、栗田Ⅲ遺跡は2の中位段丘面上に立地する。

2 周辺の遺跡

紫波地区の遺跡については、大部分が位置・範囲・時代等の調査が充分でないため、各関係

資料の修正・増補が行なわれている。今回記載の栗田Ⅰ・Ⅱ及びⅢ遺跡は、紫波インターチェンジ部調査（昭和53年）として行なわれたが、本線内にも遺跡の範囲が広がっている事が確認された。浦田館遺跡も範囲確認が充分でなかったために、遺跡の一部が本線内にかかってしまったが、未調査のままである。

遺跡の分布状態は、縄文時代の遺跡が、西部山地東麓、段丘群上にかなり集中し、竹原・升沢地区（3の低位段丘）、土館・片寄地区（1・3の高・低位段丘）、城山周辺（1の高位段丘）、下越田地区（1の高位段丘）に多くみられ、しかも古代・中近世の遺跡と重複しているものもかなりあり、下層の縄文期の遺構・遺物は、大部破壊されている現状のようである。大部分の遺跡は、中期・後期と登録されており、次いで晚期が若干みられ、早期・前期は、ほとんど確認されていなかった。

東北新幹線関連の遺跡が紫波地区に10ヵ所ある。早期末～前期初頭の遺物が出土した杉ノ上Ⅲ遺跡、前期初頭の遺物が出土した杉ノ上Ⅰ遺跡。中期を中心とした環状に並ぶ約150基の舟底形土壇群と、環状に回る約1,000基の柱穴状円形土壇群、及び住居跡を伴う集落を形成する西田遺跡。（註2）中期の遺物を出土した野上遺跡、後期の遺物を出土した大日堂遺跡と日頭遺跡、時期は不明であるが、溝状土壇を検出した古館駅前遺跡と古館橋遺跡が報告されている。（註3）西田遺跡以外は、遺構遺物が少なく、遺跡の中心地点から外れていたようである。

弥生時代の遺跡は、墳館遺跡以外は明確でないが、高水寺字田中（古館農協西側水田）、下松本字元地（古屋敷北側水田）、片寄字大明神等が登録されている。（註4）奈良時代の遺跡で、末期のものとして、岩手県埋蔵文化財センター（財）が、国道4号線矢巾拡幅工事に伴う緊急事前調査として実施した稲村遺跡がある。（註5）その他は未だ確認されていない。平安時代の遺跡はかなり多く、古館・二日町・城山・陣ヶ岡・下松本・南伝法寺・作岡・五郎沼等の各地区に多くみられる。初期のものは、岩手県埋蔵文化財センター（財）の調査した中田・古屋敷遺跡（註5）、東北新幹線関連の杉ノ上Ⅱ遺跡が報告されている。平安中後期として、東北新幹線関連の古館橋・古館駅前・杉ノ上Ⅰ・杉ノ上Ⅱ・日頭・大日堂・大銀・野上の各遺跡が報告されている。これらは高位・中位・低位の各段丘縁部付近に立地するものが大部分である。中・近世の遺跡は、館跡や城砦が西部山地東麓や、陣ヶ岡・城山付近の高位段丘縁部に多くみられ、旧街道・一里塚・寺院跡・屋敷跡・経塚跡・水上交通跡等がみられる。（註4・6）

（註1） 中川久夫ほか「北上川中流域沿岸の第四系および地形」地学雑誌第69巻第812号（1963）

（註2） 「岩手県文化財調査報告書 第51集 東北新幹線関係埋蔵文化財調査報告書—Ⅷ—西田遺跡」岩手県教育委員会（1980）

（註3） 「岩手県文化財調査報告書 第35集 東北新幹線関係埋蔵文化財調査報告書—Ⅲ—」岩手県教育委員会（1979）

（註4） 「紫波町史第1巻」紫波町（1972）

（註5） 「岩手県埋蔵文化財センター文化財調査報告書 第19集 国道4号線矢巾地区改修工事関連遺跡調査報告書 紫波町稲村遺跡・中田遺跡・古屋敷遺跡、（財）県埋蔵文化センター（1981・3）

（註6） 「埋蔵文化財地図」岩手県教育委員会（1974）他